

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 広徳 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.5	77	6.3	70	22.2	62	6.8	45
全国	24.8	77	6.5	72	23.3	65	7.2	48

(2) 本校の学力調査結果の分析

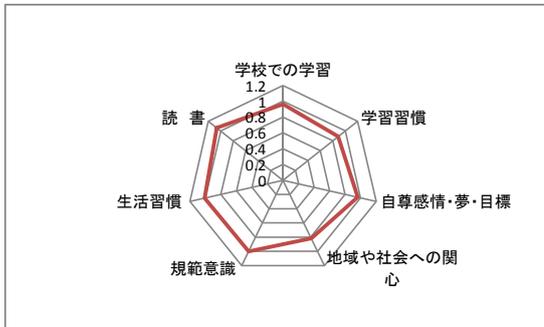
国語A	全体的な傾向や特徴など	・言語知識理解は少しずつ定着してきている。相手により伝わりやすい文章が書けるように書くことを習慣化する必要がある。	全国平均正答率との比較 同程度
	よくできた問題	楷書と行書の違いや古典に関する問いの正答率は高く、国語の特質や言語文化への理解度は全国平均を上回っている。	
	努力が必要な問題	情報を整理して必要なものを選択したり、語句を選択したりして自分のことばで表現する問いは正答率は低く、無解答率が高かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・無解答率が高い。集めた材料を整理して文章を構成し、表現を工夫して作文する問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	話の登場人物や聞き手が話し手に伝えようとするなどを理解して表現する問いの正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	記述式の問題については、無回答率が全国平均と比べて高い。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	・一元一次方程式・連立方程式の無解答率が高く、方程式が苦手なことが読み取れる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	実生活の場面で数量が正の数、負の数を用いて表される問いの正答率は全国平均を上回っている。	
	努力が必要な問題	全体的に無回答率が全国平均に比べて高く、連立二元一次方程式の正答率が低かった。	

数学B	全体的な傾向や特徴など	・説明問題の無解答が5割と出題の意図を読み取り、説明をすることが苦手なことが分かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	数学的な見方、考え方に関する問いは、その他の観点に比べて正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	資料を活用する問いや説明を必要とする問いの無解答率が高かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣は、毎日決まった時間に起床・就寝をし、朝食を毎日食べている割合も比較的高い水準を維持している。 ・自分で計画を立てて勉強をしたり、学校の宿題を家庭でしたりする生徒の割合は昨年度と比較すると5ポイント上昇しているが、全国平均と比較するとやや低い状況である。 ・読書が好きな生徒の割合は昨年度は全国平均を下回ったが、本年度は全国平均よりも高くなっている。学校図書館や地域の図書館の利用率も上昇している。 ・「地域行事への参加」や「地域社会への関心」については全国平均を10ポイント近く下回っている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

個に応じた基礎的・基本的なドリル学習を繰り返し行う。全教科で、資料等を活用した言語活動を充実させるとともに、考えを整理し表現させる授業の充実を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

調査結果では、家庭学習の習慣が定着していない生徒の割合が全国平均よりも高くなっている。そのため、課題の出し方や自主学習ノートの質を高めるような取り組みをし、教育相談や学校便りを通じて保護者に対しこれまで以上の啓発に努める。